

視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 探求活動、体験活動、研究活動の充実をはかり、生徒一人ひとりが個性を生かして主体的な科目選択ができる系と分野のシステムを構築する。</p> <p>② 創造力、推進力、発信力の育成と学習習慣の確立を目指し、生徒一人ひとりが積極的に自己を伸ばさせるための学習支援を目指す。</p>	<p>① 国際的に活躍する創造的な科学技術系人材を育成する。</p> <p>② 生徒一人ひとりが主体的に学習する基盤を構築し、表現力の育成と学習習慣を確立し、より高い学力を定着させる。</p> <p>③ 半期認定制度の効果を検証する。</p>	<p>① 実験、実習、演習等による科学技術教育及び英語教育を充実する。生徒のプレゼンテーション能力向上を目指し、外部発表会等へ積極的に参加する。</p> <p>② 基礎学力から発展への学力向上を目指し、GWPW等の言語活動を重視した授業展開をいかして、思考力、判断力、表現力を育むための主体的な学びと学習習慣を確立する。また、学習計画ガイダンス、個別ガイダンス、面談等の充実により、生徒にとってわかりやすい科目登録や履修指導を実施する。</p> <p>* :GWPW (Group Work Pair Work)</p>	<p>① 校内の発表会や外部発表会等に全員が積極的に参加し、生徒のプレゼンテーション能力の向上が図れたか。</p> <p>② 言語活動を重視した授業を実践し、思考力、判断力、表現力を育み、生徒の学習習慣定着につながったか。</p> <p>③ 半期単位認定制に関して、生徒にとって履修しやすい選択科目の登録につながられたか。</p> <p>④ 生徒自らが受信して考え、発信する場の設定ができたか。</p>	<p>○ 理科、外国語、専門科目等において実験・実習を中心とした科学技術教育・国際教育を行った。また、留学生を積極的に受け入れた。</p> <p>○ 2回の校内生徒研究発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上に努めた。</p> <p>○ 「科学の甲子園神奈川大会」等、外部のコンテストに参加した。</p> <p>○ 年間をととして、研究授業、授業改善、授業評価、校内研修会等、組織的な授業改善に取り組んだ。</p> <p>○ 100 分授業の展開を説明、課題、発表等を工夫することで、基礎的な知識及び技能が定着できた。</p> <p>○ 生徒アンケートを2回実施し、検討した。同様に職員アンケートも2回実施し、検証するため資料とした。</p>	<p>○ 科学技術における探究活動教育の柱である「課題研究 I」の2年次生必修化が始まり、課題研究 I における授業展開や教材研究等、より一層の内容充実を図る必要がある。そのため、全ての教員に校内研修を実施し、授業展開や教材、教具等の工夫等、共通理解し、言語活動の充実とプレゼンテーション能力の充実に取り組む必要がある。引き続き校内研修等を実施し足並みを揃えた指導を継続していきたい。</p> <p>○ 引き続き、組織的な授業改善に向け、校内研修等を実施する。</p> <p>○ 言語活動を重視した授業展開が各教科の基準がなく各担当教員の取組みとなっているので、研究授業等をととして、教科で統一した取組みにしていく必要がある。</p>	<p>○ 創意工夫は分かるが、それらにより、個々の生徒、学校全体がどの程度伸びたかが見える仕組みを作らないと評価は難しい。</p> <p>○ 今後の課題として取組んでほしい。</p> <p>○ 100 分授業の優劣は大学の教育現場でも論議されているところである。今後もその効果を監視する必要があると思われる。</p> <p>○ 生徒研究発表会は、テーマの選定から個性的でおもしろいと感じた。英語のスピーチもすばらしい。</p> <p>○ グローバル化の進展がハイピッチで進む中、国際的な人材を創出する為に英語教育並びにプレゼン能力の向上は必須条件であることに共感する。</p> <p>○ 校内評価同様、課題・改善方策等を PDCA でしっかり管理してもらいたい。</p> <p>○ 大学のようなイメージを高校でどう導入するかについては是非外部からの協力も得て平成 31 年度は教育課程を大きく変更できればよいと思う。</p> <p>○ 学習指導・科学技術教育・英語教育の充実、プレゼンテーション能力の向上、GWPW、100 分授業と取り組むことが多いが、それぞれ達成できている点は評価。教員一丸となっているように感じる。またさらなる向上のための課題洗い出しもできている。PDCA になっている。</p>	<p>○ 課題研究 I を2年次必修科目とした。課題研究 II と合わせ2回の校内の発表会等、全員参加によるプレゼンテーション能力の向上のための機会を増やすことが出来た。</p> <p>○ 授業改善に組織的に取組み、半期単位認定制を導入した。</p>	<p>○ 教員に校内研修を実施し、授業展開や教材、教具等の工夫等、共通理解し、言語活動の充実とプレゼンテーション能力の充実に目指した取り組みをさらに充実させる</p> <p>○ 半期単位認定制、100 分授業の導入に関して、生徒にとって履修しやすい環境が整備されているか検証を行い組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>○ 半期単位認定制度の特徴を生かしたカリキュラム検討に取り組む。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>① 一人ひとりの生徒理解に基づく生徒指導や教育相談体制を充実させ、安心して安全に希望をもって学べる学校づくりを進める。</p>	<p>① 生徒が主体となり、個性に応じた高校生活を送り、安心して安全な、明るく活力のある学校をつくる。</p>	<p>① 生徒会活動の活性化と充実をはかる。</p> <p>② 年次会を核とした情報交換を徹底し、相談体制とケース会議を充実させる。</p> <p>③ 関係グループと連携して、挨拶の励行や校内美化の推進をはかる。</p>	<p>① 生徒会活動の取組み状況と成果は十分であったか。</p> <p>② 生徒の状況把握と適切な支援のためケース会議を定期的に開催することができたか。</p> <p>③ 学校生活が安全で安心であるか。</p>	<p>○ 生徒会による近隣小学校での非行防止教室実施、南区自転車対策協議会参加など多方面の活動が行われた。</p> <p>○ 行事における生徒の満足度は、体育祭では 80%、文化祭では 70%を超えている。</p>	<p>○ いじめ対策ではアンケート以外の場面において、年間を通して、年次会を核とした情報交換と生徒の見守りが課題である。</p> <p>○ 行事においては生徒実行委員会の指導が鍵である。</p>	<p>○ ケース会議を通しての生徒指導が非常に重要と思われるが、その点の達成状況の記載がない。</p> <p>○ 生徒会活動を地域と連携して行っているのは幅広い世代で交流が生まれよいことだと思う。</p> <p>○ 校内評価同様、課題・改善方策等を PDCA でしっかり管理してもらいたい。</p> <p>○ 行事において生徒自ら参加できるようになるとよいと思う。学校は良くしていると思う。</p> <p>○ 行事が豊富。地域・行政との連携も進んでいる。ここでも教員がきちんと取り組んでいるように感じる。</p>	<p>○ 生徒の状況把握と適切な支援のために計画的にケース会議、いじめアンケートを実施、年次会、関係グループと連携情報交換を徹底した。</p> <p>○ 生徒を主体とした学校行事の実施に取り組んだ。</p>	<p>○ 計画的な生徒の状況把握と適切な支援に努める。達成状況が分かる指標を検討する。</p> <p>○ 行事における実行委員会の充実に努める。</p> <p>○ 教育相談 co、S C、SSW、担任、保健室の包括的な連携を検討する。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>① 社会で生きるために必要な知識や能力を身につけるとともに、個々の進路希望を実現させるための支援とキャリア教育の推進を行う。</p>	<p>① ガイダンス体制の充実と生徒の主体的な進路選択を支援する。</p>	<p>① キャリア教育実践プログラムに基づいた進路指導の実施とインターンシップを実施する。</p> <p>② 個々の生徒の相談に対応できる体制や指導・講習会を充実し、シチズンシップ教育、道徳教育の充実を図る。</p>	<p>① 年間の進路指導計画に基づくガイダンスを計画的に実施できたか。</p> <p>② 生徒の進路実現状況がミスマッチのない希望の進路先となっているか。</p>	<p>○ 各年次3～4回の進路ガイダンスを計画通り実施した。</p> <p>○ インターンシップ参加者(26名)</p> <p>○ 就職・専門学校・指定校大学短大希望者については、ほぼ生徒の希望通りの結果を得られた。</p>	<p>○ AO・推薦で早く進路決定しようとする生徒をいかに一般入試にチャレンジさせるかが大きな課題である。</p> <p>○ 一般入試に対応できる基礎学力の充実が必要である。</p>	<p>○ 大学入試が近く大幅に変更されることを受けて、一般入試にチャレンジさせる目標を実現するための対応を今から検討・実施する必要があるのではないかと感じる。</p> <p>○ AO・推薦の割合が高い。進路指導に予備校等のデータを生かす手法を考える必要があると思われる。</p> <p>○ 進学率が高く優秀な生徒が多い。</p> <p>○ 夢や希望にチャレンジしていく風土を一層浸透させていくことが大事。その為に生徒は極力プラス思考・プラス言動・プラス行動を心掛け、それぞれが持っている能力の最大化を図ることで、夢や希望・目標を明確化させていく。</p> <p>○ 校内評価同様、課題・改善方策等を PDCA でしっかり管理してもらいたい。</p> <p>○ 新大学共通テストに対する対策。</p> <p>○ 就職・進学等、生徒の希望通りの結果はよい。ただもう一つ上のレベルを目指す生徒もいると感じる。</p>	<p>○ キャリア教育実践プログラム計画に基づく、年間の進路指導計画に基づくガイダンスを計画的に実施できた。</p> <p>○ 各年次で実施しているスタディサポート、実力判定テストを整理し、生徒の進路実現を支援するとともに実現状況がミスマッチのない希望の進路先となるように取組んだ。</p>	<p>○ 引き続きキャリア教育実践プログラム計画に基づく、年間の進路指導計画に基づくガイダンスを計画的に実施する。</p> <p>○ 新しい大学共通テストに対して対策を検討する。</p> <p>○ 英語の四技能試験対応を検討する。</p>
4 地域等との 協働	<p>① 積極的なボランティア活動を展開し、地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携を深め、地域に根ざした教育活動を推進する。</p>	<p>① 地域および他校間との連携を強化し、開かれた学校とする。</p> <p>② 小学校と連携して科学技術体験教室を4校で実施する。</p>	<p>① コミュニティ・スクール(CS)指定校として特色ある教育活動を推進する。</p> <p>② ホームページ等を活用した学校広報活動を推進する。</p> <p>③ 地域に根ざした交通安全啓発活動等の取組みを推進する。</p>	<p>① CSの取組み状況や活動状況とその成果は十分であったか。</p> <p>② 地域や外部機関との連携、活動状況やその成果は十分であったか。</p>	<p>○ 高校体験プログラムに加え、小学生科学技術体験教室を1校から2校増やし3校に実施した。アンケートからも実施に満足する結果が得られた。</p>	<p>○ CSの取組み状況としては、今までの取組みを整理する形となった。地域との連携を校内組織と結びつけることが課題である。</p> <p>○ ホームページ更新、学校案内・チラシ等の配布は継続する必要がある。</p>	<p>○ 高校体験プログラム以外に地域や外部機関との連携活動状況が不明。近隣大学との高大連携(接続)を推進していないのでは。</p> <p>○ 小中学生対象の事業は将来の受検者を増やす上で効果的であると思う。</p> <p>○ 地域自治会として少しずつ連携が取れ始めていると感じている。</p> <p>○ ボランティアの一つに地域交流を入れても良いのではないかと。</p> <p>○ AI、ロボットに注目が集まり、小学生プログラミング必修化で科学技術教育には追い風。小学生科学技術体験教室、高校体験プログラムに多数の参加者。</p>	<p>○ CSの取組みは、現行実施している地域連携を充実させながら、地域外部機関との連携を模索した。</p> <p>○ 小学生科学技術体験教室を3校に実施した。</p>	<p>○ CSの取組みとして校内組織を整え、地域との連携と結びつけることを課題として取り組む。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>① 事故不祥事の未然防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力の向上を目指す。</p> <p>② 生徒の防災意識を高め、防災教育の推進をはかる。</p>	<p>① 職員の不祥事防止の徹底。</p> <p>② 防災教育の充実により、信頼される学校とする。</p> <p>③ 生徒、保護者と職員の信頼関係のもと、充実した式典等の学校行事に取り組む。</p>	<p>① 事故防止会議および事故防止研修の継続による職員コンプライアンスを向上する。特に私費会計基準の適切な運用を行う。</p> <p>② 生徒の防災意識の喚起および安全対策を行う。</p> <p>③ 教職員の実践的指導力の向上により生徒自らが考え、主体的に式典等学校行事に取り組ませる姿勢づくりを図る。</p>	<p>① 事故および不祥事件数のゼロを継続できたか。</p> <p>② 計画的な予算執行が行えたか。</p> <p>③ 防災教育として、緊急時の対応を含め具体的な行事を実施できたか。</p> <p>④ 生徒が主体的運営に携わりどれだけ事故不祥事防止につながられたか。</p>	<p>○ 事故および不祥事件数のゼロを達成できた。</p> <p>○ 防災訓練を実施し、避難経路・点呼方法を確認した。</p> <p>○ 生徒や保護者に信頼されるよう、式典等に取り組んだ。</p>	<p>○ 今後も計画的な事故防止研修に取り組む。</p> <p>○ 災害時の生徒の引き取り方法・点呼方法を確認した。</p> <p>○ 生徒が主体的に取り組めるよう、指導力を向上させる。</p>	<p>○ 生徒が主体的運営に携わることは重要だが「事故不祥事防止につながられたか」というのは余りにも後向き。もっと前向きな視点で評価してもらいたい。</p> <p>○ 事故及び不祥事案が0はすばらしい。先生方のご協力に敬意を表す。</p> <p>○ 大災害発生時における近隣避難所運営対象学校(大野南中、谷口台小)や相模女子大との連携についてシミュレーションしておくことも考えてほしい。</p> <p>○ 今後も引き続きやっていただければよい。</p> <p>○ 災害時についてひと工夫あっても良いのでは。</p> <p>○ 引き続き取り組みを進めてほしい。</p>	<p>○ 事故および不祥事件数のゼロを継続できた。</p> <p>○ 防災訓練、DIG研修会を実施し、避難経路・点呼方法を確認した。</p>	<p>○ CSの取組みとして地域近隣の自治会、学校等との連携を模索する。</p>